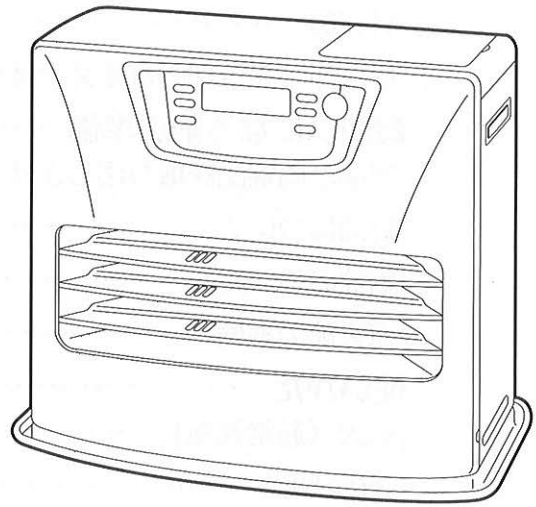
型式 LC-L437（エル シー エル）
型式 LC-L537（エル シー エル）

石油ファンヒーター

強制通気形開放式石油ストーブ

取扱説明書

このたびは本品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。

■ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。

この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。

■同梱のアフターサービス登録カードは必ずご投函ください。

X06-1

株式会社 トヨトミ

7591001921

もくじ

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険（DANGER）	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告（WARNING）	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意（CAUTION）	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

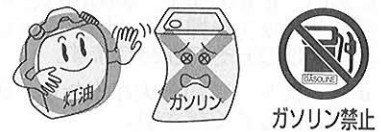
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠ 危険（DANGER）

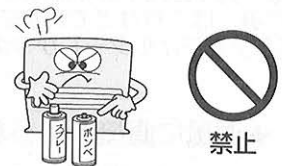
★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

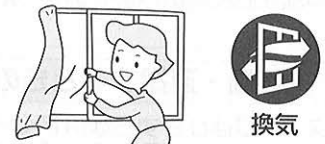
ガソリン禁止

⚠ 警告（WARNING）

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの前面や温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

★換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。
  酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回（1～2分）換気して、新鮮な空気を補給してください。
  （窓の凍結、地下室など）換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

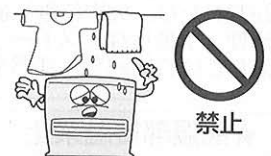
換気

★温風吹出口（ルーバー）をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口（ルーバー）や燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口（ファンフィルター）をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
落下した衣類に火がつき、火災の原因になります。

禁止

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず消火し、火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

消火

★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ガソリン、ベンジン、シンナー）、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。

使用禁止

安全のために必ずお守りください

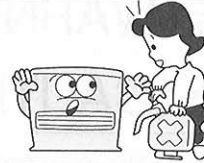
⚠注意（CAUTION）

★カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
毛布やふとんなどを近くに置かないでください。
火災が発生するおそれがあります。

禁止

★給油時消火

給油は、必ず消火して、本体温度が充分下がってから、火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

消火

★居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

禁止

★油漏れ確認

給油口口金は確実に締めてください。
給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金が外れて、火災のおそれがあります。

- 油が漏れる状態で使用しないでください。火災のおそれがあります。

確認

★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常を感じたときは使用しないでください。
運転スイッチを押して「切」にしてください。
異常燃焼のおそれがあります。

- 万一ストーブから火が出たり、床などに火がついたときは、あわてずに消火器で消火してください。

使用禁止

★ほこりの除去

燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口（ファンフィルター）は、週１回以上必ず掃除してください。
ごみ、ほこりなどで燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口（ファンフィルター）がつまると、異常燃焼のおそれがあります。

指示

★温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたったり、ストーブの前に長時間い続けないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
温風を直接吸い込まないでください。気分が悪くなることがあります。

禁止

★移動・運搬するときの注意

ストーブはひきずらないでください。床面、じゅうたんなどを傷つけたり、本体底面の塗料がはがれて、さびの原因になるおそれがあります。
ストーブを移動する時は、必ず消火し、油タンクを抜いて傾けないように静かに移動してください。油が漏れたり、火災になるおそれがあります。
修理・引越しなどストーブを運搬される時は、必ず油タンク、油受けざらの灯油を抜いてください。灯油がこぼれ周囲を汚すおそれがあります。

指示

★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、温風吹出口（ルーバー）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

接触禁止

★指や異物を入れない

温風吹出口（ルーバー）やストーブ内部に指や異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

禁止

⚠注意（CAUTION）

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
ストーブは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

分解禁止

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜き電源プラグをコンセントから抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
抜き取れなかった灯油が漏れたり、火災のおそれがあります。

確認

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。

禁止

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

電源プラグを抜く

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。）
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

指示

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

指示

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体のご不自由な方がお使いになる場合は、やけどや、部屋の換気などについて、周囲の人が充分に注意してください。

指示

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。
ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。
ストーブの上に花びんや、水を入れたものなどを置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

禁止

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。（24ページ参照）
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際思わぬ事故が発生するおそれがあります。

指示

安全のために必ずお守りください

⚠注意(CAUTION)

★次の場所では使用しない 火災や予想できない事故や故障の原因になります。

使用禁止

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しいところでは、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな床面で使用してください。
- 毛足の長いじゅうたんの上では使用しないでください。
- 不安定な台上で使用しないでください。転落するおそれがあり危険です。

暖炉などストーブが囲われる場所

- 暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使い方をしないでください。火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

- 空気を取り入れる燃焼空気取入口（給気フィルター）や温風空気取入口（ファンフィルター）が目づまり状態になり、異常燃焼や異常過熱を起こし、事故になる危険性があります。

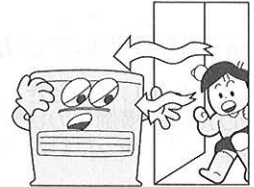
理・美容院、クリーニング店など スプレーや化学薬品を使う場所

- 理・美容院、メッキ、塗装工場、電子部品組立工場、繊維関係工場などでは使用しないでください。
  器具の故障や、腐食性ガスの発生により金属、鏡、ガラスなどを傷める原因となります。
- 石油ファンヒーターで暖房する部屋ではシリコーンを配合した枝毛用コート液やヘアートリートメント（枝毛用）は点火ミスや、途中消火など故障の原因になりますので使用しないでください。

高地（1300m以上の場所）

- 酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。
- 800〜1300mでは調整が必要ですので販売店までお問い合わせください。

風のあたる場所、部屋の出入口（屋外）

- 風のあたるところでは使用しないでください。炎が出て危険です。
  掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通るところ、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

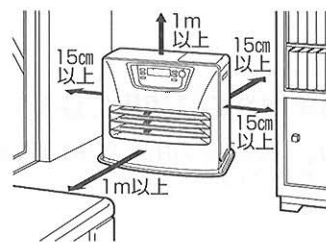
可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

温室・飼育室など人のいない場所

- 予測できない事故が発生するおそれがあります。

★可燃物（木壁、合板、ふすまなど）との距離を離す

- ストーブ上方の棚などとの距離は必ず１m以上あけてください。
- 上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
- 特に、カーテンなどがストーブにふれないようにしてください。
- 家具などからは充分な距離をとってください。
  （熱で変形や変色、自然発火することがあります。）

お願い(NOTICE)

★シリコーン配合製品を使用しない

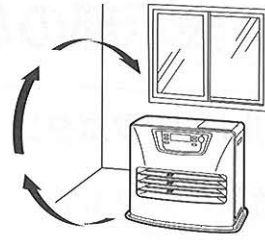
- ストーブ（石油ファンヒーター）で暖房する部屋では、シリコーン配合製品（ムース・クリーム・液体スプレーなどの枝毛用ヘアートリートメント類、つや出し剤や、防水スプレーなど）を使用しないでください。点火ミス・途中消火などの故障の原因になります。

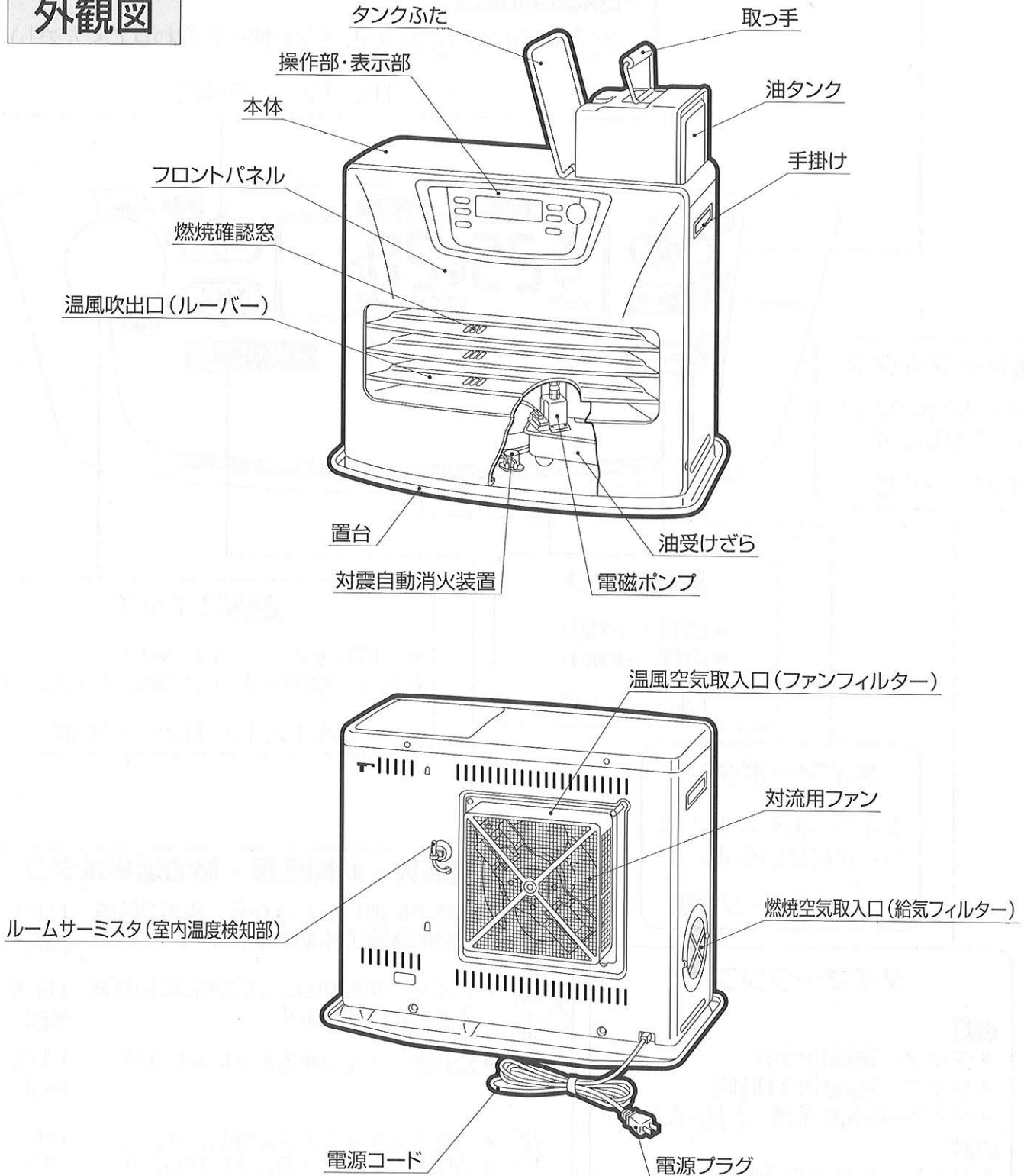
★灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

★効果的に使用するために

- 温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。
- 外気に接する窓の下や壁面に設置すると効果的です。

各部のなまえ

外観図

各部のなまえ

操作部・表示部のなまえと使いかた、「点灯」・「点滅」の意味

チャイルドロックボタン

設定・解除をする場合は、3秒以上押します。

20ページ参照

温度／時刻合わせボタン

室温の設定、時刻の設定に使います。

- **室温設定の場合**
  設定温度をお好みの温度にすることができます。
  さげる あるいは あげる のボタンを押して合わせてください。
- **時刻設定の場合**
  さげる あるいは あげる のボタンを押して合わせてください。

13、16、17ページ参照

灯油セーブボタン

灯油セーブ運転の設定・解除をおこないます。

16ページ参照

運転ランプ

- **点滅**…予熱中
- **点灯**…運転中

14ページ参照

運転スイッチ

- 一度押すと　　「入 ▬」
- もう一度押すと「切 ▬」になります。

14、17、18、19ページ参照

タイマーボタン

タイマー運転をおこなうときに使います。

17、18ページ参照

タイマーランプ

点灯
- タイマー運転待機中
- タイマー運転中の1時間
- タイマー運転終了時（1Hr表示中）

点滅
- タイマー時刻を設定中

17、18ページ参照

消臭点火・時間延長・給油延長ボタン

運転スイッチ「入」	●燃焼中に押したときから、再度3時間の燃焼継続が可能になります。	19ページ参照
	●タイマー運転から、通常運転に切り替えるときに押します。	18ページ参照
	●給油延長運転をするときに押します。	11ページ参照
運転スイッチ「切」	●消臭点火をするときに押します。 ●消臭点火を解除するときに押します。	14ページ参照

（給油）表示

表示が点灯

油タンクの灯油が少なくなって消火する10分前。「ピー」音が鳴り、残り燃焼時間（分）を表示します。

表示が点滅（運転中）

給油延長ボタンを押し、給油延長（LC-L437は最大約90分、LC-L537は最大約60分延長）運転中を表示します。

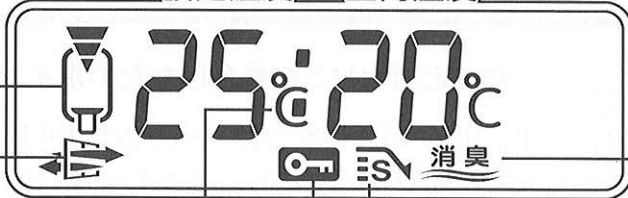
表示が点滅（運転停止）

- 油がなくなり自動消火しました。
油切れ時は「－－ －－」表示となります。

11ページ参照

消臭 表示

- **点灯**…消臭点火に設定されています。
- **点滅**…消臭機能作動中。
- **消灯**…消臭点火が解除されています。

14ページ参照

℃表示

点灯…設定温度が設定されています。
点滅…設定温度を設定中

16ページ参照

（灯油セーブ）表示

点灯…灯油セーブ運転中
消灯…灯油セーブ運転が解除されています。

16ページ参照

（換気）表示

点滅（運転停止）
室内の空気が、酸素不足状態です。
- 窓やドアを開けて充分に部屋の換気をしてください。
- 換気表示にたよらず1時間に1～2回は必ず部屋の換気をしてください。

20ページ参照

（チャイルドロック）表示

点灯…チャイルドロック作動中
消灯…チャイルドロック解除

20ページ参照

デジタル表示部

（消臭点火が解除されている場合は消臭表示は消灯しています。）

■温度表示
設定温度…6℃～28℃まで設定温度を選択できます。
室内温度…0℃～32℃まで表示します。

設定温度　室内温度　25℃ 20℃　消臭

■現在時刻表示
現在の時刻を表示します。

8:00

■タイマー運転時刻表示
タイマー時刻表示は「点滅」します。
※タイマー運転終了時は「1 Hr」を表示します。

6:00

■給油に関する残り燃焼時間
残り時間を表示します。
※油切れ時は「－－ －－」表示となります。

10

■3時間燃焼終了時の表示
「3 Hr」を表示します。

3 Hr

■故障・異常により自動消火したときの表示（エラー表示）
自己診断機能により、故障時にはE-0～E-9を表示します。

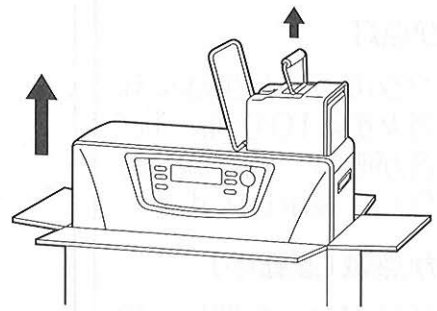
E- 5

■クリーニング燃焼表示
クリーニング燃焼の残り時間を表示します。

CL:05

お使いになる前の準備

製品と同梱品を取り出します

- 包装箱からすべての梱包材を取り除き、製品に傷をつけないように取り出してください。
  同時に取扱説明書も取り出してください。
- 詳しくは、包装箱上面に表示してある「包装の内容」を参照してください。
- 包装箱や梱包材は保管するときにご利用ください。

灯油について

◉ 燃料は灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。
◉ 変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠ 危険

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

- 変質灯油、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）は、絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。
- 助燃剤（添加物）は使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。

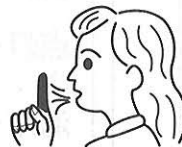
灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
（火の気のない所でおこなってください）

○ 灯油	× ガソリン
濡れたままです。	すぐ乾いてしまいます。

◉ 灯油の保管のしかた

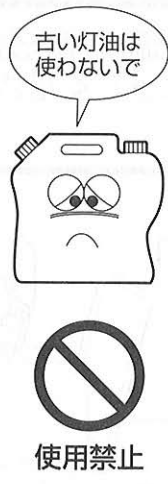
禁止

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直接日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- 灯油の容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずJIS認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。

良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管

禁止

変質灯油とは

- 古い灯油。(2年以上越した灯油)
- 長期間、日光の当たる場所や温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
  変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。

不純灯油とは

- 灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。

変質灯油の見分けかた

コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。

水と同じ無色透明なら正常。	少しでも色がついていたら使用しない。	● 変質灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。

◉ 変質灯油や不純灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油を使用しますと、バーナーに多量のタールがたまり、点火しなくなったり、燃焼が悪くなったり、激しいにおいがしたりします。
- 水の混入した灯油を使用しますと、炎が小さくなり火が消えてしまいます。又、油タンクに灯油が残っているのに、「 」を表示することがあります。

◉ 万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンク、油受け、油受けざら内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2〜3回洗ってからご使用ください。
(24ページ参照)

2 悪い灯油を抜き取っても効果のないときは、販売店までお問い合わせください。

お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

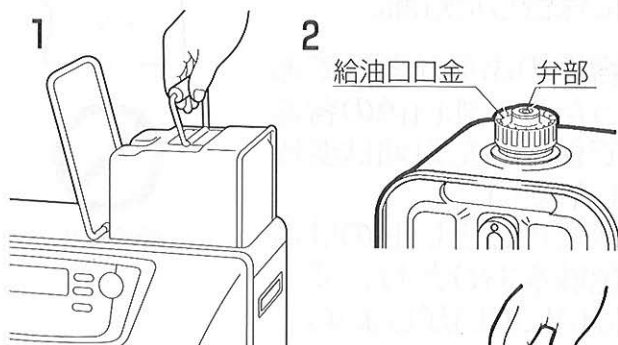
お使いになる前の準備

給油のしかた

⚠ 注意　給油は、必ず消火して、本体温度が充分下がってから、火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

1 油タンクを取り出す。

2 給油口口金を左「」へ回して取りはずす。

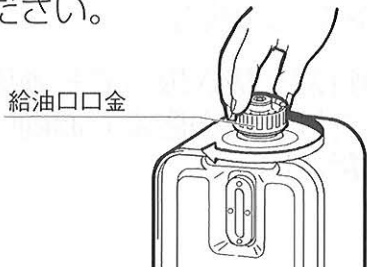
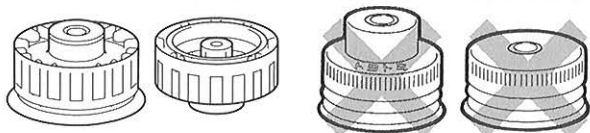
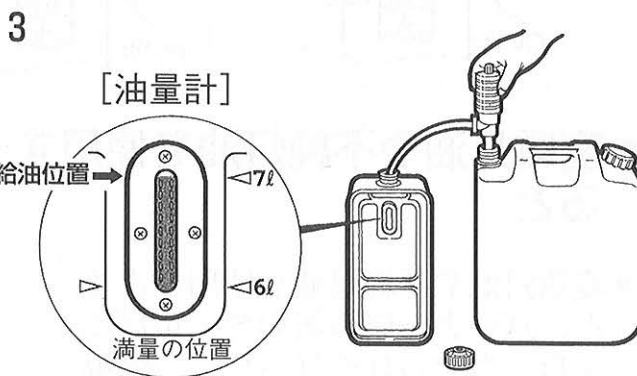
- 給油口口金を取りはずす前に、口金先端の弁部を押すと、給油口口金が開けやすくなります。

3 給油する。

市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。（ホースが抜けないように注意しながら給油してください。）

- 灯油は油量計の上部（右図　**給油位置➡**）まで給油してください。入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分注意して給油してください。

4 給油口口金を締める。

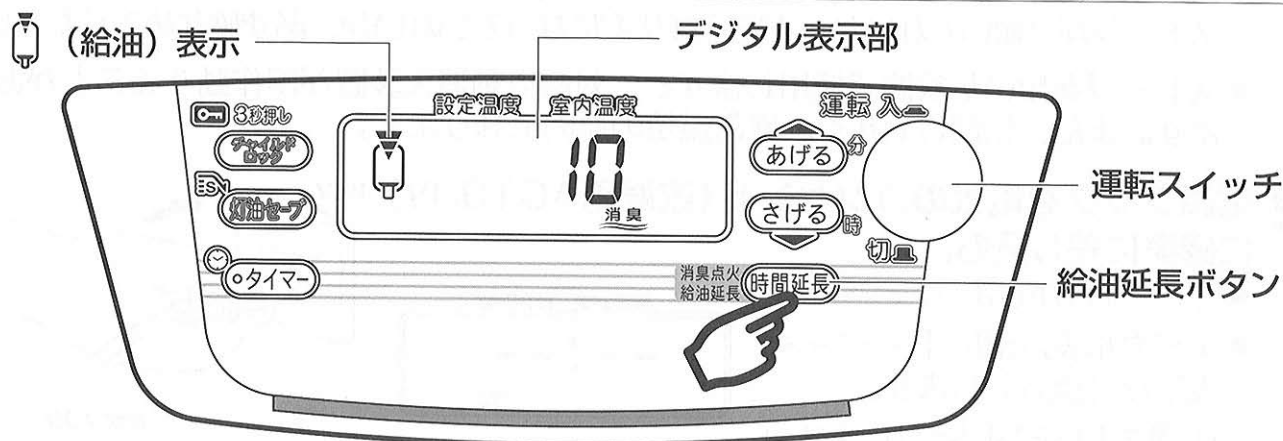
給油口口金を右「」に回して確実に締めてください。

- こぼれた灯油はよく拭き取ってください。

★給油口口金は、斜めに締めたり、締めつけが不完全ですと、油漏れによる火災の原因になります。また、違った給油口口金を取り付けますと油がでなくなります。

〔本機の給油口口金〕

5 油漏れのないことを確認する。

給油口口金を下にして油漏れのないことを確認してから、ストーブに正しく静かにセットします。

★油が漏れる状態で使用しないでください。火災のおそれがあります。

給油の目安（給油延長運転）

油タンクの灯油が空になっても、油受けざらの灯油を燃焼させて、LC−L437は最大約90分、LC−L537は最大約60分の延長燃焼（給油延長運転）ができます。

1 油タンクの灯油が少なくなると、「 」表示が「点灯」し、「ピー」音が鳴り、デジタル表示部に残り燃焼時間（分）「 10 」を表示します。

- 「運転スイッチ」を押して消火してから、給油してください。

★給油しませんと、2分ごとに「ピー」音が鳴ります。約10分後に、「 」表示が「点滅」し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「-- --」表示となり自動消火します。

2 給油延長運転をするとき

油タンクの灯油が少なくなり「 」表示が**「点灯」**したときに、**「給油延長ボタン」**を押します。「 」表示が**「点滅」**にかわり、給油延長運転をしてLC-L437は最大約90分間、LC-L537は最大約60分間の燃焼継続をします。デジタル表示部の残り燃焼時間表示（分）が変わります。

給油延長運転中、残り燃焼時間が10分以下になると2分ごとに「ピー」音が鳴ります。

- LC-L437は約90分以内、LC-L537は約60分以内に、「運転スイッチ」を押して消火してから給油してください。

★給油しませんと、「 」を表示し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「-- --」表示になり、自動消火します。

- **「給油延長ボタン」**を押すと、時間延長（燃焼）も同時にセットされます。
  （19ページ 消し忘れ消火装置の使いかた 参照）
- 給油延長運転中は、室温に関係なく最小燃焼（**「微弱」**または**「ミニ」**）運転をします。

ストーブを持ち運ぶときは必ず消火をし、本体温度が充分下がってから、電源プラグをコンセントから抜いて、油タンクを取り出して、ストーブを傾けないよう静かに運んでください。灯油がこぼれて火災になるおそれがあります。

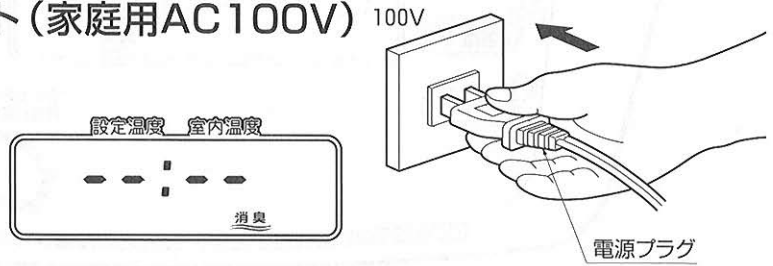
お使いになる前の準備

点火前の準備

1 水平の確認をする。

- ストーブは振動のない、水平でしっかりした床面に設置してください。
  ストーブが、傾いてないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
- ストーブを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。また、転倒しやすく、異常燃焼の原因になります。

2 電源プラグを電気のコンセント（家庭用AC100V）に確実に差し込む。

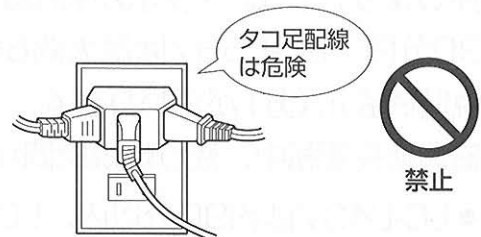
- 「ピー」音がします。
- デジタル表示部に「--：--」表示が「点灯」します。
  （「消臭」表示も「点灯」します。）

お願い

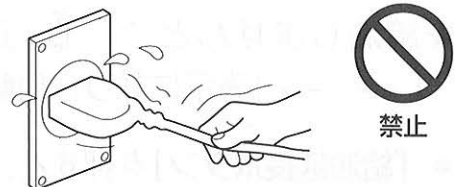
★電源プラグを、絶対に、200ボルトのコンセントに差し込まないでください。
感電・火災・故障の原因になります。

★コンセントがゆるんでいたり、差し込みが不充分ですと、電源プラグが過熱し、熱変形することがあります。このようなときは、必ずお買い上げの販売店に修理を依頼してください。
お部屋のコンセントも必ず修理してください。

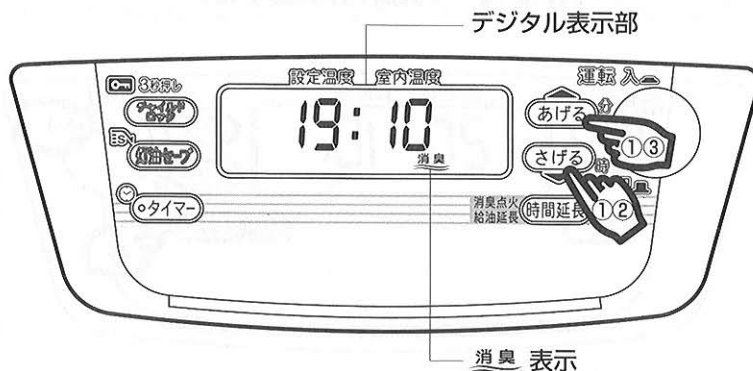
★電源コードに傷を付けたり、束ねたり、折ったり、重い物をのせたり、加工しないでください。感電や火災の原因になります。

★他の電気器具と同時に使用するときは、ご家庭の安全器（ブレーカー）の容量をこえないようにしてください。

禁止

★電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かないでください。断線、発熱、発火の原因になります。

禁止

★熱に弱いじゅうたんや床の上で長時間使用すると、床面が変色したり、そり返ることがありますので、熱に強いマットなどを敷いてください。

注意

3 現在時刻を設定します。

例 現在時刻が午後7時10分の場合

① さげる または あげる のボタンを一度押す。

「ピー」音がして「-- --」表示が「点滅」します。

② デジタル表示を見ながら さげる のボタンを押して 19 に合わせる。

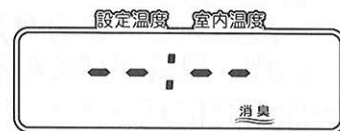
③ デジタル表示を見ながら あげる のボタンを押して 10 に合わせる。

- さげる ・ あげる のボタンは、一度押すごとに1時間または1分間ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
- 時刻合わせをする場合は、デジタル表示部の時計表示が**「点滅」**している間(10秒間)に さげる ・ あげる のどちらかのボタンを押してください。
  時刻合わせができなかった場合は、もう一度 さげる または あげる のボタンを押してやり直してください。

④ 「19 10」表示が、「点滅」から「点灯」に変わり、設定が完了します。

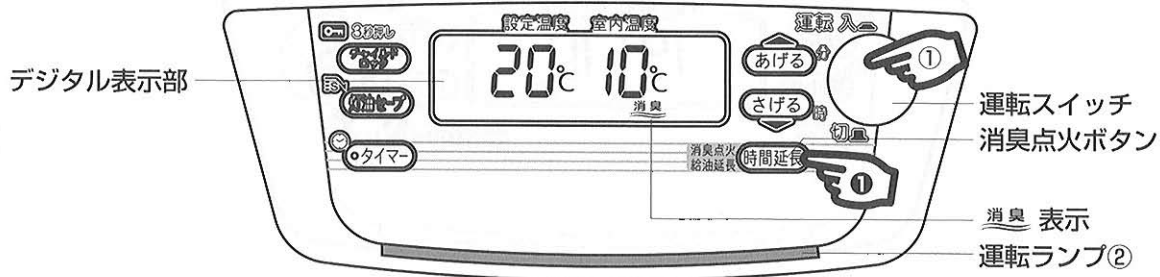
お願い

★ストーブの時刻表示が狂ったり、タイマー点火時刻が狂ったりする場合は、電源プラグを一度抜いて、もう一度差し込み直して、時刻を設定してみてください。それでも直らないときはお買い求めの販売店までお問い合わせください。

★ストーブに初めて通電したときや、停電後や、電源プラグを抜いて再通電した場合、デジタル表示は右図のようにデジタル表示部に**「--:--」**表示が**「点灯」**しますので、現在の時刻を設定してください。
(「消臭」表示も「点灯」します。)

★省電力機能

- **デジタル表示部の時計表示は、5分間経過しますと、省電力機能が働いて、デジタル表示部が「消灯」して、電力の消費をおさえます。**(※チャイルドロック設定になっている時は「O-π」表示は「点灯」したままになります。)
  時刻を確認したい場合は、操作部の「運転スイッチ」以外のどれかのボタンを押すと表示します。「運転スイッチ」を押すと点火動作に入ります。
  (運転中及びタイマー待機中この機能は働きません。)

使いかた

点火（通常運転）

※購入後初めてお使いになるときや、電源プラグを抜いた状態から再度お使いになるときには、消臭点火モードに設定されますので、最初から「消臭」表示が**「点灯」**します。
「消臭点火」は、点火までの時間をLC-L437は約150秒、LC-L537は約210秒にして、予熱を充分におこない、点火時のにおいを少なくする点火方法です。

① 「運転スイッチ」を押して「入」にする。

- 「ピー」音がして「運転ランプ」が「点滅」します。
- デジタル表示部に設定温度と室内温度を表示します。

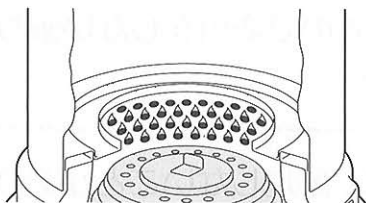
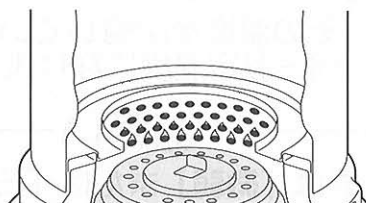
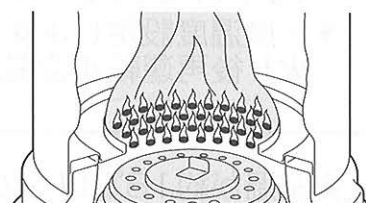
> 油タンクに灯油があるのに「 」を表示している場合は、油受けを取り出し、ごみや水を捨て、灯油で洗浄してください。（24ページ参照）

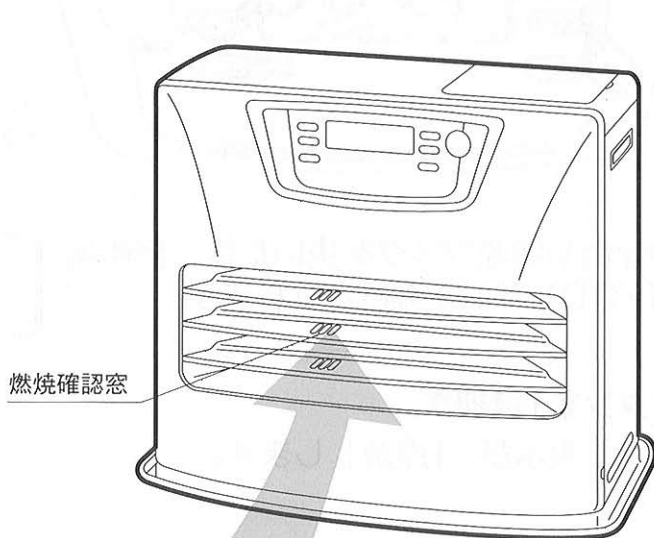
② LC-L437は約150秒後、LC-L537は約210秒後にに自動的に点火し、「運転ランプ」が「点灯」に変わります。

★消臭点火解除方法

❶ **「運転スイッチ」**が**「切」**のときに**「消臭点火ボタン」**を押すと、「消臭」表示が**「消灯」**して消臭点火モードが解除され、点火までの時間が短かくなります。（LC-L437は約90秒、LC-L537は約150秒）
室内温度が6℃以下の場合は、点火までの時間が、LC-L437は約150秒、LC-L537は約210秒のままです。

お願い

★初めて運転するときや、製品を移動させたり、激しい振動が加えられたあとに運転するとき、白煙（灯油の蒸気）や臭気が出ることがあります。これは、移動、振動によりバーナー（燃焼部）内に落ちた余分な油が蒸発することによるもので、一度点火し、余分な油がなくなれば白煙や臭気はなくなります。この様な場合は白煙、臭気がなくなるまでは（窓をあけるなど）換気をおこなってください。
★点火時にバーナー（燃焼部）内で、「ボッ」と言う音や「ゴーゴー」と言う音がします。これは点火を確実にするためで異常ではありません。
★点火時には少しにおいがあります。
★燃焼中「チッチッチッ」と言うような音がすることがありますが、電磁ポンプの音です。また、燃焼中に「ジュッジュッ」「シャンシャン」などの音がする場合がありますが、これは灯油が蒸発する音です。異常ではありません。
■消し忘れによる、万一の事故を防ぐために、点火後3時間で自動消火をします。燃焼を継続する場合は、消火する前に**「時間延長ボタン」**を押してください。詳しくは19ページを参照してください。

炎の状態

★ストーブを使用するときは、正常に燃焼しているか燃焼確認窓から炎の状態を必ず確認してください。

（ここに表示した状態は「強燃焼」の状態です）

	正　常	異　常	使用禁止
炎の図			
状態	● 青炎燃焼で炎の先端に多少黄炎がはいる。 ● 炎の伸びや、燃焼音が小さい。	● 炎が黄色く燃焼音が大きい。	● 炎が高く伸び、炎全体が黄色。 ●「ピー」と言うような異常音がする。
処置	――――	● 燃焼空気取入口（給気フィルター）を掃除する。 ● 販売店にご相談ください。	

使いかた

室温の調節（運転中にしかできません）

温度設定しない場合や停電や電源プラグを抜いた後、再運転する場合は、「20」（20℃）が設定温度となります。

① さげる または あげる ボタンを1度押す。
- 「ピー」音がして「℃」表示が、「点滅」します。

② 温度を上げるとき。
- デジタル表示を見ながら あげる のボタンを押す。

③ 温度を下げるとき。
- デジタル表示を見ながら さげる のボタンを押す。

- 温度設定をする場合は「℃」表示が**「点滅」**している間（約10秒間）に さげる・あげる ボタンのどちらかを押してください。設定できなかった場合はもう一度押して、やり直してください。
- 設定温度は6℃～28℃、室温表示は0℃～32℃まで表示します。
- 設定温度にコントロールするため、自動的に（最大）**「強」**・**「中」**・**「弱」**・**「微弱」**・（最小）**「ミニ」**運転をくり返します。
- 一度温度設定しますと、その温度を記憶していますので変更をしない限り、**「消火」**後再運転する場合、同一設定温度になります。

お願い

★室温が約18℃以下のときは**「微弱」**または**「ミニ」**燃焼しないことがあります。
★温度調節は温風空気取入口（ファンフィルター）近くの温度を感知しておこないますので、ストーブの位置や部屋の大きさによって、必ずしも、デジタル表示部の室内温度表示と、室温とは一致しません。

灯油セーブ運転

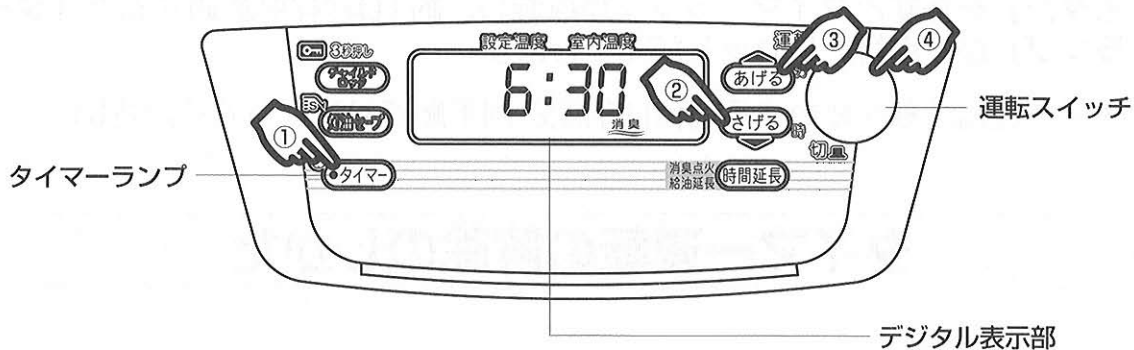
- 灯油セーブ運転は設定温度よりも室温が約3℃上昇しますと**「消火」**して無駄な暖房を抑えます。
- 灯油セーブ運転を解除していない状態で運転したときに、室温が設定温度より3℃以上高い場合は、運転ランプは**「点灯」**しますが運転はしません。
また、室温が設定温度をしたまわると、自動的に再点火します。

❶「灯油セーブボタン」を押します。

- 「ピー」音がして「ES」表示が「点灯」し、セットされます。

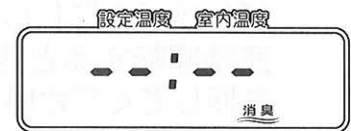
★解除する場合は再度「灯油セーブボタン」を押してください。
- 「ピー」音がして「ES」表示が「消灯」し、解除されます。

タイマー運転のしかた（タイマーを使用して暖房を始めたいとき）

★タイマー運転をする場合は、13ページ **3 現在時刻を設定します** に従って、時刻合わせをしてからでないとタイマー運転できません。

- 通常、タイマー運転設定時刻の0分から25分前に運転を開始します。
  このストーブのタイマー運転は、ファジーコントロールで、お部屋の大きさとそのときの室温により、自動的に運転時刻を決定し、設定時刻には、お部屋を暖かくしておきます。
- タイマー運転時刻は、5分おきにしか設定できません。

例 午前6時30分に設定したいとき

① 「タイマーボタン」を押す。

- 「ピー」音がしてデジタル表示部の表示が「--:--」表示に変わり、「タイマーランプ」が「点滅」します。

② デジタル表示を見ながら（さげる）のボタンを押して 6 に合わせる。

③ デジタル表示を見ながら（あげる）のボタンを押して 30 に合わせる。

- （さげる）・（あげる）のボタンは、一度押すごとに1時間または5分ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
- 時刻合わせをする場合は、「タイマーランプ」が**「点滅」**している間（約10秒間）に（さげる）・（あげる）のどちらかのボタンを押してください。
- 設定できなかった場合は、もう一度**「タイマーボタン」**を押してやり直してください。

④ 「タイマーランプ」が「点滅」している間に、「運転スイッチ」を押して「入」にする。

- 約10秒ほど経過すると、「タイマーランプ」が「点灯」し、デジタル表示は現在の時刻を表示してセットが完了します。
- タイマー点火時刻を設定しないと、デジタル表示部に「Er or」が表示されます。

使いかた

使いかた

★タイマー運転は、一度タイマー運転時刻を設定すれば、変更しない限り、**「タイマーボタン」**を押して「タイマーランプ」の**「点滅」**中(約10秒間)に、**「運転スイッチ」**を**「入」**にするだけで同一時刻で設定が完了します。

★**「運転スイッチ」**を押して、**「運転ランプ」**が**「点滅」**しているときに**「タイマーボタン」**を押すとタイマーランプが点滅し、約10秒程度経過すると**「タイマーランプ」**が**「点灯」**しセットが完了します。

★タイマー運転時刻を変更する場合は前記と同手順でおこなってください。

タイマー運転の解除のしかた

タイマー運転操作をした後、タイマー運転時刻前にタイマー運転の解除あるいは通常運転をおこないたい場合。

1 **「運転スイッチ」**を押して**「切」**にする。→ [タイマー運転の解除]

2 **「運転スイッチ」**を再度押して**「入」**にする。→ [通常運転開始]

タイマー運転の注意事項

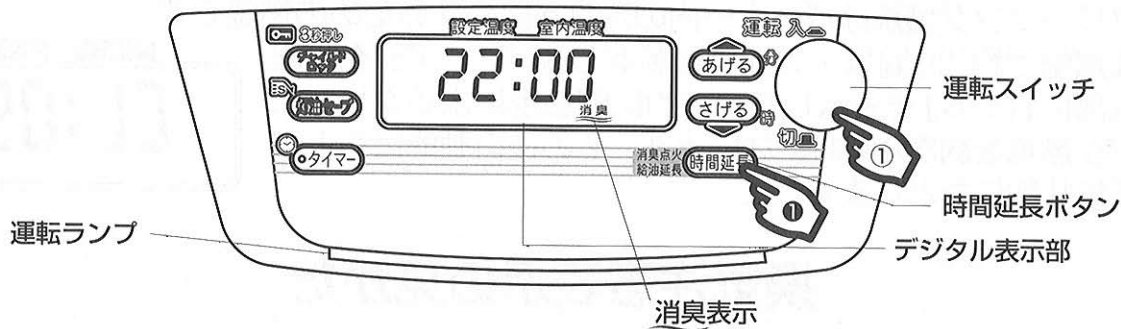
★タイマー運転をした場合、点火後約1時間後に自動的に消火し、**「タイマーランプ」**が**「点灯」**し、デジタル表示部の**「1Hr」**表示が**「点灯」**します。
連続運転するときは、タイマー運転の点火後1時間以内に「時間延長ボタン」を押してください。

- 残り燃焼時間が10分になるとデジタル表示部に10、9・・・1と表示し、2分毎に「ピー」音でお知らせします。
- これは閉め切った部屋で長時間、換気せずに燃焼すると、空気不足で危険となるためで、手を触れない場合は、自動的に消火します。

★通常運転中に**「タイマーボタン」**を押すと、**「消火」**して**「タイマー運転」**の待機状態になり、タイマー運転時刻に自動的に点火します。
(但し現在時刻を設定してからでないと、「タイマー運転」の待機状態になりません。)

★タイマー運転時刻の確認は、タイマー運転待機中または消火時に**「タイマーボタン」**を押すと、10秒間表示します。

★タイマー運転操作後に停電があったときや、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したとき、電源プラグを抜いたときは点火しません。
この場合は、再度13ページ **3現在時刻を設定します** を読んで、時刻合わせからおこなってください。

消火のしかた

①「運転スイッチ」を押して「切」にする。

- 「ピー」音がしてデジタル表示部は現在の時刻を表示し、「消臭」表示が「点滅」して、消臭機能の作動中を表示します。

★LC−L537は消火時に「ジーッ」という音がしますが、これは消火時の臭気を取る吸臭ポンプが作動するためで、異常ではありません。

- 消火後、LC−L437は約90秒間、LC−L537は約150秒間、対流用ファンは回転し続けます。その後自動的に停止します。

消火時の注意

★（移動するときなど）消火後、対流用ファンが止まるまで、電源プラグをコンセントから抜かないでください。音が出たり、炎が出たり、ススが発生して再点火後に安全装置が作動してエラーで停止することがあります。（25ページ **異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）** 参照）

★緊急のときを除いて、消火は必ず「運転スイッチ」を使用してください。電源プラグを抜いて消火させないでください。

お願い

★消火操作をしたときは**「運転ランプ」**の**「消灯」**とバーナー内の火が消えることを確認してください。

★消火時にはバーナー（燃焼部）内で「ボッ」と言う音や「ゴーゴー」と言う音がします。これは消火を確実にするためで異常ではありません。

★点火してすぐに消火操作をしたとき、きつい臭気が発生することがあります。点火後約20分はできるだけ消火しないでください。

★長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

消火後再点火するときの注意

★**消火後すぐに再点火すると、異常音が出ることがありますので、しばらく（約10分）待ってから再点火してください。**

★ストーブが暖かいうちに再点火操作をした時の予熱時間は、LC−L437は約40秒、LC−L537は約50秒です。

消し忘れ消火装置の使いかた

★消し忘れによる、万一の事故を防止するために、**点火してから3時間燃焼が継続すると、デジタル表示部に「 3Hr 」を表示して、自動的に消火します。**

- 残りの燃焼時間が、10分になるとデジタル表示部に数字で 10、9・・・1 と表示します。
- この間、2分毎に「ピー」音でお知らせします。

❶ 消火する前に「時間延長ボタン」を押す。

- その時点から再度3時間の燃焼継続が可能になります。
- 自動消火した場合は、**「運転スイッチ」**を押し直してください。

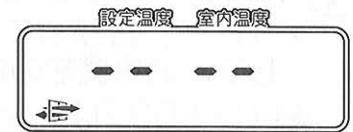
クリーニング燃焼表示

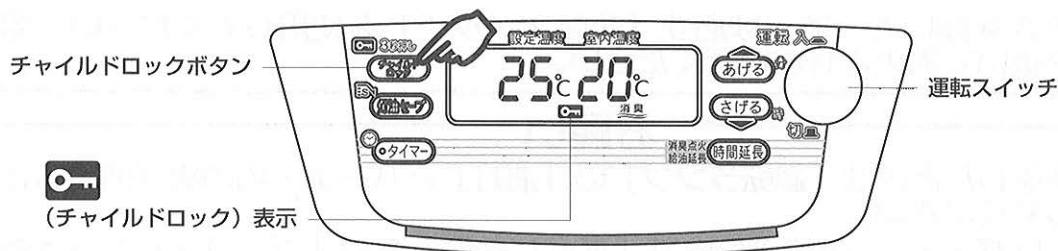
★クリーニング燃焼はバーナー内の汚れを除去するための燃焼です。

●強燃焼で約2時間以上の連続運転をしますと、デジタル表示部に「CL 05」を表示して自動的に弱燃焼によるクリーニング燃焼を約5分間おこないます。その後自動的にもとの燃焼状態にもどります。

設定温度 室内温度
CL:05
消臭

換気注意表示の見かた

★閉め切った部屋などで長時間運転をすると「⇐」表示が**「点滅」**し「ピー」音が5秒間鳴って運転を停止し、デジタル表示部に「-- --」表示が**「点滅」**します。
「⇐」表示にたよらず、1時間に1～2回は必ず部屋の換気をしてください。

チャイルドロックの使いかた

チャイルドロックは、お子様のいたずら操作の防止や、誤って「運転スイッチ」を押しても点火しないようにしたいときに使用します。

1 運転中にチャイルドロックを「セット」したとき
- **「運転スイッチ」**で**「消火」**のみができます。
- 設定温度の変更など他の操作はできません。

2 消火中にチャイルドロックを「セット」したとき
- すべての操作ができません。

3 チャイルドロック中に点火もしくは再点火したとき
- デジタル表示部に「Er or」が表示され点火しません。

チャイルドロックの使用は、**「チャイルドロックボタン」**を3秒以上押すことで、「セット」又は「解除」ができます。

「セット」･･･「🔑」表示が**「点灯」**。

「解除」････「🔑」表示が**「消灯」**。

安全装置

★**安全装置が作動するのは何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。**

★再点火操作とは一度**「運転スイッチ」**を**「切」**にしてから再び押し直して**「入」**にすることをいいます。

安全装置名	はたらき	処置
対震自動消火装置	●運転中にストーブ本体が地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に運転を停止します。	●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、機器の損傷、油のあふれなど、異常がないことを確認した後、再点火してください。
不完全燃焼防止装置	●換気不良、手入れ不良、その他の異常によりバーナー部への空気の供給が不足したとき不完全燃焼による危険を防止するものであり、自動的に燃焼を停止します。 **この装置は、あくまでも不完全燃焼による危険を防止するためのものであり、使用中は必ず1時間に1～2回換気して、新鮮な空気を補給してください。**	●作動した場合は、燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除をし、部屋の換気をしてから再点火してください。（22、23ページ参照）
点火安全装置	●点火ヒーターの赤熱不足や、バーナーサーミスタの不良による点火不良。 ●点火ヒーター･電磁ポンプ･ブロアモーターなどの故障により点火しないときに、運転を停止します。	●点火ヒーターの故障が原因で運転を停止したときはバーナー底のクロスマットに灯油がしみこんでいます。完全に乾燥させてから、ご使用ください。（販売店にご相談ください）
停電安全装置	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして電源が切れたときは、自動的に運転を停止します。再び通電されても運転しません。 ●**タイマー運転中に停電があった場合、タイマー運転は解除されます。**	●再点火操作をします。 ●現在時刻の設定とタイマー運転時刻の設定をやり直します。（13、17、18ページ参照）
燃焼制御装置	●燃焼中に炎が消えたとき、自動的に運転を停止させる安全装置です。	●再点火操作をします。
過熱防止装置	●対流用ファンモーターの故障や異常燃焼などの原因でストーブが異常過熱したとき、火災などの危険を防ぐために燃焼を停止します。	●温風空気取入口（ファンフィルター）のほこりを取り除いてから、再点火操作をします。（23ページ参照）
消し忘れ消火装置	●消し忘れによる危険を防止するために、点火してから3時間、燃焼が継続すると自動的に燃焼を停止します。	●消火する前に「時間延長ボタン」を押す。 ●消火した場合は、再点火操作をします。

点検・手入れ

定期点検のおすすめ(2シーズンに1回程度)

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店、又は修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL03−3499−2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店、当社などに点検依頼されることをおすすめします。

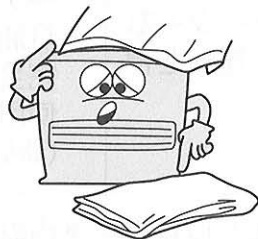
日常の点検・手入れ

お願い

- **点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、本体温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。**
- 部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- 本体をベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
- 電装品や燃焼部の取りはずし、分解はおこなわないでください。

使用のたびに

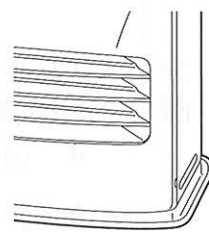
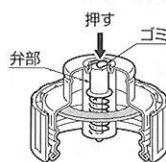
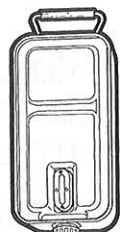
周囲の可燃物

- ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすいものを置かないようにしてください。

ほこり

- ストーブについたほこりや汚れは、掃除機で吸い取ったり固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。
  汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブのいたみを早めます。

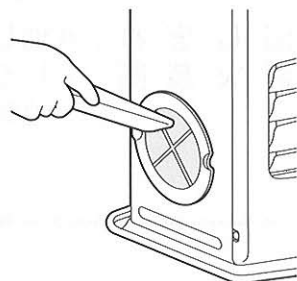
油漏れ、油のたまり、油のにじみ

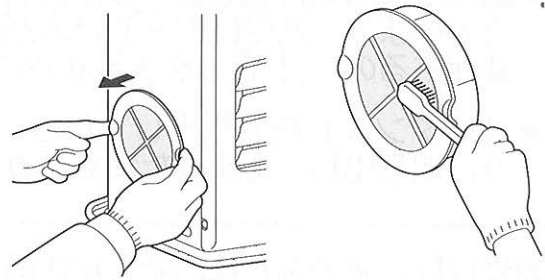
- 万一油漏れによって、油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因をたしかめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認してから点火操作をしてください。

置台に
油にじみは
ありませんか。

- 油タンクの給油口口金の弁部などに、ごみがはさまっている場合がありますので取り除いてください。

1週間に1回以上

燃焼空気取入口（給気フィルター）の掃除

- 本体側面にある燃焼空気取入口（給気フィルター）に、ごみやほこりが目づまりしますと、燃焼用の空気量が減って点火時に白煙が出たり、燃焼中に不完全な燃焼となり炎が高く伸びたり「ピー」と言うような異常音がすることがあります。
  燃焼空気取入口（給気フィルター）に付いているほこりを、電気掃除機などで吸い取ってください。

時々、燃焼空気取入口（給気フィルター）をはずして掃除をしてください。

燃焼空気取入口（給気フィルター）の目の中がつまっている場合がありますので、やわらかいブラシなどで、燃焼空気取入口（給気フィルター）の目のつまりを掃除してください。
（光にかざして目づまりがきれいになったか確認してください。）

お願い

★**布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。**
汚れが取れないときは、洗剤で洗って、よく乾かしてからご使用ください。

★取りはずしたときは、必ず元どおりに取り付けてください。
（取りはずしたままでご使用されますと、異常燃焼の原因になります。）

温風空気取入口（ファンフィルター）の掃除

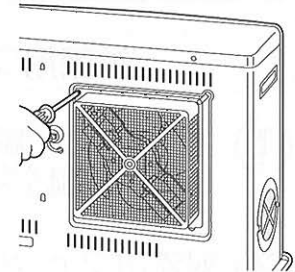
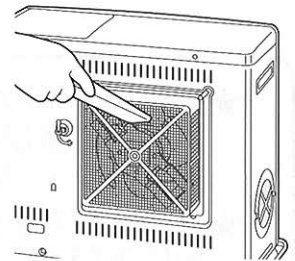
- 本体背面にある温風空気取入口（ファンフィルター）にごみやほこりが目づまりしますと、温風用空気量が減って過熱防止装置がはたらいて消火します。対流用ファンが停止していることを確認してから温風空気取入口（ファンフィルター）に付いているほこりを、電気掃除機などで吸い取ってください。

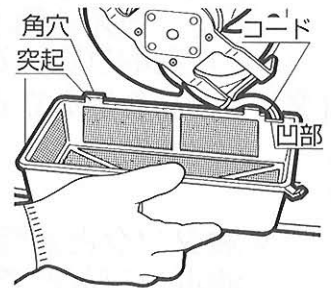
お願い

★**電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。**

★温風空気取入口（ファンフィルター）の汚れがひどい場合は、温風空気取入口（ファンフィルター）の止めねじ(2本)をはずし、温風空気取入口（ファンフィルター）をはずして、掃除をしてください。

★はずした温風空気取入口（ファンフィルター）は、必ず元どおりに組み付けてください。けがをします。

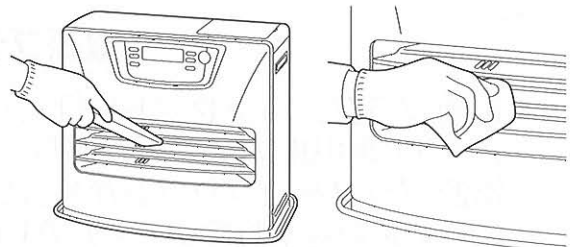
★温風空気取入口（ファンフィルター）の掃除をしても燃焼が停止するようであれば、24ページに記載してあります対流用ファンの掃除もおこなってください。

温風空気取入口（ファンフィルター）の取り付けかたと注意

- 温風空気取入口（ファンフィルター）下側の突起を、ストーブ背面の角穴に入れ、対流用ファンのコードを温風空気取入口（ファンフィルター）の凹部を通してからふたをしてください。

1箇月に1回以上

温風吹出口（ルーバー）の掃除（必ず手袋をはめておこなってください）

- 温風吹出口（ルーバー）が汚れたり、ほこりが付着した場合は、電気掃除機や、固くしぼったぬれ雑巾などでふき取ってください。

お願い

このとき必ずストーブを消火し、温風吹出口（ルーバー）が冷えてからおこなってください。
やけどをするおそれがあります。

点検・手入れ

油受けの掃除

- 油受けは灯油は通しますが水は通しにくいフィルターでできています。油受けに水やごみがたまると、油タンクに灯油があるのに、「 」を表示することがあります。
- 「油タンク」を取り出してから、「油受け」を傾けないように取り出し、たまった水やごみを取り除いてください。

お願い

油受けは、水で洗わないでください。必ず灯油で洗ってください。

対震自動消火装置

- 燃焼中にストーブをゆすって、自動的に消火するか点検してください。
- 自動的に消火しますと、デジタル表示部に「E- 5」を表示します。

1シーズンに1～2回以上

お願い

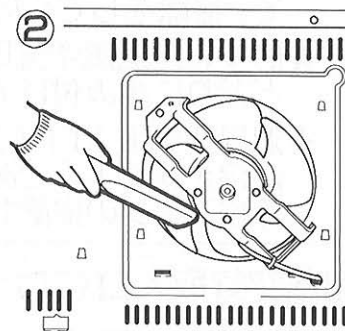
★対流用ファンにごみやほこりが多量に付着しますと、温風用空気量が減って過熱防止装置がはたらいて消火します。
対流用ファンのごみやほこりを、電気掃除機で吸い取って取り除いてください。

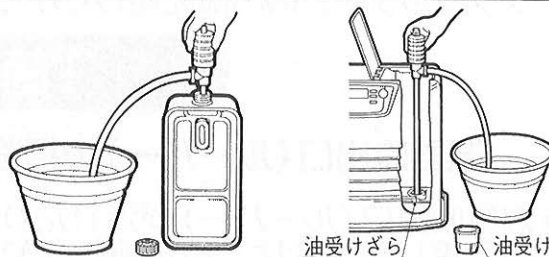
★ストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。

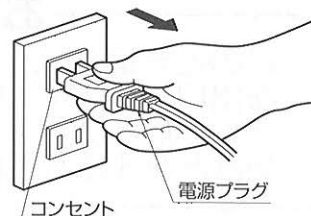
対流用ファンの掃除（必ず手袋をはめておこなってください）

① 23ページ 温風空気取入口（ファンフィルター）の掃除 を参照して、温風空気取入口（ファンフィルター）をはずしてください。

② 対流用ファンに付着したごみやほこりを、電気掃除機で吸い取ってください。
また、見える箇所だけでよろしいですから、本体内部のほこりを取り除いてください。

③ 元どおり組み立ててください。

油タンク、油受けざらの掃除

- 油タンクと油受けを取り出し、市販の給油ポンプなどで油タンクや油受けざら内の水やごみを取り除いてください。

電源プラグ、コンセント

- 電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると火災の原因になることがあります。
電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）

安全装置が作動すると、自動消火します。また、デジタル表示部に故障・異常の原因が表示「エラー表示」されます。繰り返し表示するときや運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

デジタル表示	点灯（点滅）の意味	処置方法
E-0	● 過熱防止装置が作動しました。	● しばらく待ってから再点火操作をしてください。 ● 温風空気取入口（ファンフィルター）、温風吹出口（ルーバー）、対流用ファンの掃除をしてください。(23、24ページ参照) ● ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
F-0	● 停電消火後電源が入りました。	● 運転スイッチを一度「切」にしてから再点火操作をしてください。 ● 電源プラグなど電源をご確認ください。 ● 電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」などをご連絡ください。
E-1	● ルームサーミスタが断線しました。	● 修理が必要です。お買い求めの販売店または別紙のお客様相談窓口一覧まで、「デジタル表示」などをご連絡ください。
F-1	● バーナーが予熱不足です。 ● バーナーサーミスタが断線しました。 ● 点火ヒーターが断線しました。	
E-2	● 消火後すぐに再点火操作しました。 ● 点火安全装置が作動しました。 （● 燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。4ページ参照）	● しばらく待ってから再点火操作をしてください。 ● お買い求めの販売店または別紙のお客様相談窓口一覧まで、「デジタル表示」などをご連絡ください。
E-5	● 地震により消火しました。 ● 本体を傾けたり、強い振動、衝撃が与えられ消火しました。	● ストーブが傾いていないか確認してから、再点火操作をしてください。
E-6	● 不完全燃焼防止装置が作動しました。 （● 燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。4ページ参照）	● 燃焼空気取入口（給気フィルター）、油受けの掃除をしてください。(22、23、24ページ参照) ● 修理が必要です。お買い求めの販売店または別紙のお客様相談窓口一覧まで、「デジタル表示」などをご連絡ください。
E-7	● 室温が33℃以上になりました。	● ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
E-8	● ブロアモーターが停止しました。	● 電源プラグを入れ直してください。 ● 電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」などをご連絡ください。
E-9	● 点火安全装置が作動しました。 （● 燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。4ページ参照）	● 燃焼空気取入口（給気フィルター）、油受けの掃除をしてください。(22、23、24ページ参照) ● 修理が必要です。お買い求めの販売店または別紙のお客様相談窓口一覧まで、「デジタル表示」などをご連絡ください。
Er or	● チャイルドロック中に運転スイッチを「入」にしました。	● 運転スイッチを「切」にして、チャイルドロックを解除してください。(20ページ参照)
	● タイマー点火時刻が設定されていません。	● 運転スイッチを「切」にして、タイマー点火時刻を設定してください。(17、18ページ参照)
---- バー表示点滅 換気	● 室内が酸素不足です。	● 窓やドアを開けて充分に部屋の換気をおこなってから再点火操作をしてください。
---- バー表示点滅 給油	● 灯油がなくなり消火しました。	● 灯油を給油してから再点火操作をしてください。 ● 油受けの掃除をしてください。(24ページ参照)
1Hr	タイマーランプ ● タイマー運転が終了しました。	● 再点火操作をしてください。
3Hr	● 消し忘れ消火装置にて消火しました。	● 再点火操作をしてください。
全消灯	● 省電力機能が作動しました。 (13ページ参照)	● 操作部のいずれかのボタンを押してください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

故障かなと思ったときに

現象＼原因	運転ランプが点滅しない	点火しない	点火時に白煙が出る	炎が大きくならない	炎が高く伸びる	黄火でもえる	給油表示が点滅する	換気表示が点滅する	使用中室内がにおう	使用中急に消える	置台に油にじみがある	燃焼音が大きい	突然すべてのランプが消える	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでない	○												○	電源プラグをコンセントに差し込む
停電した	○									○			○	停電復帰後、再点火操作をする
対震自動消火装置が作動した										○ E-5				再点火操作をする
油受けに水が入った		○					○			○				油タンクと油受け内の水を取り除く
油受けざらに水が入っている										○				市販の給油ポンプで水混入の灯油をしっかり抜く
燃焼空気取入口（給気フィルター）の目づまり			○		○	○			○	○ E-6				燃焼空気取入口（給気フィルター）を掃除する
油タンクに灯油がない		○					○			○				灯油を入れる
灯油が油タンクの出し入れでこぼれた									○		○			こぼれた灯油をきれいにふきとる
換気不良								○		○				部屋の充分な換気をする
変質灯油や不純灯油を使った			○	○		○			○			○		変質灯油や不純灯油を良質の灯油に入れかえる 販売店にご相談ください
省電力機能が作動しました													○	操作部のいずれかのボタンを押してください（13ページ参照）
給油口口金が間違っている							○							正しい給油口口金を取付けてください（10ページ参照）

● 表中の E 表示は、「デジタル表示」（エラー表示）を示します。

部品交換のしかた

部品交換のときの注意

- 部品交換や修理をお受けになる場合は、日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）などのいる販売店で修理されることを推奨します。

★不完全な修理は危険です。

★故障したものは使わないでください。

- 短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。

★部品は必ず純正部品（指定された部品）をご使用ください。

★部品を交換するときは、ストーブを消火し、本体が充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

保管のしかた（長期間使用しない場合）

- ストーブを保管する場合は、22ページ ▶**点検・手入れ**の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。
- いたんでいる箇所は必ず修理をしてから保管してください。

1 ストーブを消火し、ストーブが充分冷えてから、電源プラグをコンセントから抜く。

2 燃焼空気取入口（給気フィルター）、温風空気取入口（ファンフィルター）、温風吹出口（ルーバー）、電源プラグに付着したほこりや汚れを掃除してください。

- 燃焼用空気取入口（給気フィルター）は布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。

3 油タンク、油受けざら内の灯油、ごみ、水気を取り出す。

- 錆や穴あきの原因になります。

4 器具の表面をよく拭いて、汚れを取る。

- 固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。（シンナー、ベンジンなどではふかないでください。）

5 包装箱に入れて保管する。

- 湿気の少ない所に保管してください。
- 傾けたり、横にしないでください。
  抜けきれなかった灯油が漏れることがあります。

★取扱説明書・保証書も必ず保管してください。

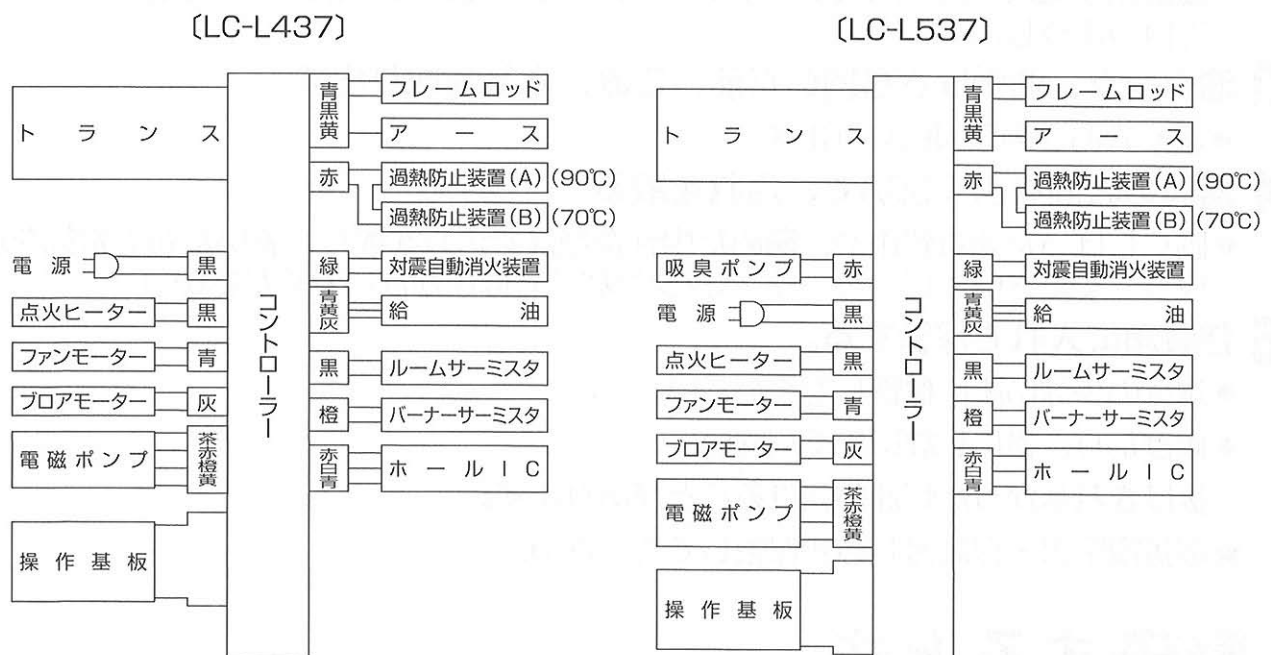
廃棄するとき

24ページ **油タンク、油受けざらの掃除** の項を参照して、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってから廃棄してください。

仕様

型式の呼び		LC－L437	LC－L537
種類		ポット式・強制通気形・強制対流形	
点火方式		電気点火	
使用燃料		灯油（JIS1号）	
燃料消費量	最大	0.413L／h	0.510L／h
	最小	0.099L／h	0.137L／h
暖房出力	最大	4.25kW	5.25kW
	最小	1.02kW	1.41kW
油タンク容量		7.0L	
燃焼継続時間		16.9時間（最大燃焼時）	13.7時間（最大燃焼時）
外形寸法		高さ445mm　幅550mm　奥行327.5mm（置台を含む）	
質量		12.0kg	12.7kg
電源電圧及び周波数		100V・50／60Hz	
定格消費電力		点火時320／320W　燃焼時26／24W 最大950／950W（点火初期に短時間発生） 待機時0.8／0.7W	
騒音値（正面）※		最大燃焼時36dB　最小燃焼時21dB	最大燃焼時37dB　最小燃焼時24dB
電流ヒューズ		4A	
安全装置		対震自動消火装置、点火安全装置、燃焼制御装置、過熱防止装置、停電安全装置、不完全燃焼防止装置、消し忘れ消火装置	

※騒音値の数値はJIS測定方法（JIS S3031）に基づく正面値です。

■配線図

アフターサービス

保証について

● **添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、お受け取りください。記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。**

★保証期間はお買い上げの日より1年間です。

修理を依頼するとき

● **故障・異常の見分けかたと処置のしかた**（25ページ）に従って、お調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
● ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油ファンヒーター（強制通気形開放式石油ストーブ）
②型式の呼び…**（例）LC-L537**
③お買上げ年月日
④故障の状況（できるだけ具体的に）
⑤おなまえ、おところ、電話番号
● 修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
● 保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
● 修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

この取扱説明書と本体に表示されている禁止事項・注意事項および通常使用に反して使用された場合の故障、事故につきましては、保証いたしません。

補修用性能部品について

★石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。
● 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

転居される場合

● このファンヒーターは電源周波数50、60Hzとも同一仕様です。
★電源周波数の異なった地域への転居でもそのままお使いいただけますが、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要ですので、別紙の **お客様相談窓口一覧** までご相談ください。

⚠ 注意
故障・破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。

⚠ 注意
修理、引越しなどで、ストーブを運搬される時は、必ず油タンク、油受けざらの灯油を抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買い求めの販売店、または、もよりの お客様相談窓口一覧 （別紙参照）までお問い合わせください。

愛情点検	★長年ご使用の石油ファンヒーターの点検を！	●石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。

ご使用の際 このようなことは ありませんか	●油漏れする。 ●燃焼中強いにおいがする。 ●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常にながい。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。

ご使用 中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　　式		お買上げ年月日	年　　月　　日
お買上げ店名	（電話番号）　（　　）　－		

株式会社 トヨトミ

本　社　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855　TEL〈052〉822-1144
FAX〈052〉822-2742

X-Ⓚ

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています

株式会社トヨトミは快適環境の一環としてこの取扱説明書は再生紙を使用しています。